

2021年秋

組合員一斉討議資料

～みんなの活動プロジェクト答申書より～

生活クラブ茨城 理事会

はじめに

みなさんにとって生活クラブとはどんな存在ですか？

私は、私が母のお腹の中にいる頃からの付き合いになります。私がお腹にいると分かった頃に母は、妊娠中にタバコやお酒は赤ちゃんに良くないと言われていたが、食べ物にも気をつけないといけないのでは？と思ったそうです。生活クラブと出会い、いつ・どこで・誰が育てたものか分かる！生産者の顔がちゃんと見える、そして何を食べて育ったかまで分かってしまう生活クラブの魅力に惹かれ、我が家にはなくてはならない存在になりました。

生活クラブがあるのが当たり前のように育った私が、組合員になった事で生活クラブと新たな関係が生まれました。色々な講座や生産者交流会に参加してみて初めて添加物や農薬の話や聞き、子供達の予防接種の話や聞き、知ることの大切さを実感・知らないことの恐ろしさを痛感し、当たり前のように生活クラブがある生活を母に感謝しました。そして、知りたくて知りたくて色々な講座や生産者交流会に参加して、知ったらみんなに伝えたくて！色んなところで熱弁しました。共感した友達が組合員になって、組合員になった事でエコロをうまく活用することで気兼ねなくお互い助け合いが出来ています。知って伝える事も組合員活動なんだと言う事をこの頃にやっと知りました。組合員活動って難しい事じゃないんだ！と思いました。自分が知りたかったり、不安に思っている事を発信し、誰かが共感してくれて、その輪がどんどん大きくなったら生活クラブ全体でも話し合う事が出来て、社会にも投げかける事が出来る！！生活クラブって凄い！今ではそう思っています。

今回の「みんなの活動プロジェクト」では、組合員活動って何だろう？誰のための生活クラブ？生活クラブってどんなところ？を、より分かりやすく伝えたい！と話し合いを続けてきました。会って、話して、共感して、みんなでお悩む。とても楽しい時間でした。最後まで読んでもらって、少しでも共感してもらえたら最高です。やっぱり分からなかったら、それも伝えてください。みんなで作り上げて行くのが生活クラブ！どんな方向にも向かえます。次はあなたも一緒に悩みませんか？

2021年11月1日

みんなの活動プロジェクト座長

佐々木 友紀子

一人ではできないけれど、みんなと話しあって、生活クラブの仕組みを利用して、できてきたことがたくさんあります。

生活クラブは、生活の中の困っている事を組合員と一緒に考えて、行動し、理想的な生活をつくっていける協同組合なんです！

1. 暮らしの小さな「何でだろ?」、「困ったな…」、「あ、そうだったんだ！」

ありませんか?(気づく)

私たちの消費材は、組合員の疑問や不安から生まれました。暮らしの中の小さな疑問や不安なことは、なかなか見つけにくく気が付きにくいものです。ですが、『ちょっと立ち止まって暮らしを見つめ直したり…』、『テレビを見ていて…』、『お友達と話していて…』と、疑問点や不安な事を感じる場面は、様々あるのではないのでしょうか。

組合員の暮らしの疑問や不安を解決していくための一つの手段として、消費材や組合員活動は存在しています。生活クラブの組合員活動は、生活クラブのための活動ではありません。組合員活動は、ほんの些細な『何でだろ…』『困ったな…』『そうだったんだ!』から始まります。

たとえば…

- ①『哺乳瓶洗いで手指の荒れが酷くなった』⇒『皮膚科では対処療法だけ』
⇒『このままずっと治らないの?先輩ママはどうしてるの?』
- ②『ケチャップたっぷりのお店のハンバーガーを食べたら、口の周りが痛痒くなった』
⇒『ケチャップはあきらめるしかない?ケチャップ好きなのに・・・』
- ③『きれいな海なのに、熱帯魚の真上にプラごみが浮いていた』
⇒『ごみを撤去したいけど、どうしたらいいの?』
- ④『3.11 後、自宅周辺や通学路や子どもの遊ぶ公園の放射線量が心配』
⇒『安全性の確認をしたい。みんなはどう思ってる?』
- ⑤合成洗剤で手が荒れる・アトピー性皮膚炎・化学物質過敏症・香害・食物アレルギーなどで、困っている…
- ⑥班が遠くて取りに行けない。歳をとったら取りに行けなくなるかも?生活クラブやめようかな～



2. 「困っていること」を話してみませんか？

人と人との出会いや生活クラブのしくみの活用から、小さな想いが繋がります。

(発信、繋がる)

私自身が感じたささいな疑問や不安。近所に住む人や同じ生活環境の人、生活クラブの組合員…周りの人に伝えてみると、自分だけの気づきではないのかもしれない。

また、周りに伝えることは、私が感じていることへの共感だけでなく、その問題の解決へと繋がる可能性もあります。解決できないのは当たり前だと思っていたり、仕方がないと思っていた事も、人と人との繋がりやたすけあうこと（人と人とのコミュニティ）で、解決につながることもあるのではないのでしょうか。

生活クラブには“地域くらぶ”、“班”、“エッコロ”等、組合員同士が繋がり、たすけあう事のできる仕組みがあります。生活クラブの仕組みを使って、共感の輪を拡げたり、問題解決へのきっかけになります。“私”の想いから“私たち”の想いへつながることで食や環境といった問題だけでなく、様々な想いを叶えられます。

たとえば…

①『「石けんをつかってみたら？」と紹介されて』⇒『手に優しい＝環境に優しいことが分かった。』

②『嘆いていたら「試しに生活クラブのケチャップを食べてみて」と貰った』

⇒『恐る恐る食べてみたら・・・痛くない。友人に感謝。言ってみるもんだ。この違いは何だろう。添加物が原因かな？』

③『海のごみ拾いボランティア活動ってどんなん？市役所に問合せ』

⇒『Facebookで海のごみ拾いをしている組合員さんのグループを紹介された』

⇒『一緒に参加⇒上映会や講演会の情報入手。参加して益々興味津々に。』

④『話してみたら気にしているママが沢山いた』⇒『安全性の判断としてまず測る』

⇒『みんなで測ろう。通学路も学校周辺も。』

⑤中身のわかる安心安全な食べ物が大切で、身体にダメージを与える合成洗剤や化学物資を使わない生活をしたい。放射能・遺伝子組み替え・ゲノム編集・環境汚染・マイクロプラスチックなどの問題について…教えてくれる人、詳しい人を知っている人が近くにいた！

⑥個配があつたらいいのにな～デポーでもいいよね～実はみんなが思ってたみたい。



3. 無いなら作れる！新しい活動、今までにない仕組み(拡げる、作る)

生活クラブの組合員活動に『こうしなければならない』はありません。想いを周りに相談(発信)、共感を広げながら、改善や解決について話し合うことで、必要な活動や仕組みへの発想を生み出すことができます。『この想いをもっと拡げるには・・・』『こんな仕組みがあれば解決できるのに・・・』など、今ある生活クラブの組合員活動の一つ一つは、こうした組合員の新たな発想から生まれ、広がり、今現在も繋がっている活動です。

生活クラブの組合員活動は、生活クラブのための活動ではありません。“私の想いに、周囲の人たちが共感し、その想いの輪を拡げながら、生活クラブの仕組みや消費材が持つ運動性を活用することで、社会の仕組みさえも変えることができる。”それが、生活クラブの組合員活動です。

たとえば…

- ① 『「石けんをつかってみたら？」と友人に紹介してみたい』
⇒ 『組合員にならないと買えないのかな?』 ⇒ 『「せっけんはうす」の仕組みを知った』
- ② 『このケチャップのこともっと知りたい!!』 ⇒ 『生産者交流会に参加』
⇒ 『もっと使いやすいように改良できないかな?』 ⇒ 『消費材改善・開発へ』
- ③ 『海の汚染は川から町から。』 ⇒ 『涸沼でゴミ拾い』
⇒ 『涸沼クリーンアップ大作戦を実施(37名参加)』
- ④a 『県央ブロックで放射線測定チームを作り、大勢の組合員で気になる場所を測定』
⇒ 『学習会も開催』 ⇒ 『測定結果は市役所へ報告に。』
- ⑤b 『放射線測定チームとは別に専門知識のある人々と共同のこつこつ測り隊を結成。』
⇒ 『測定チーム解散後はこつこつ測り隊が後継』
⇒ 『測定結果を市役所と国営ひたち海浜公園へ報告』
- ⑥ 意見交換会や学習会を行い、サステイナブルな社会を目指して一緒に考えて行動していくことが出来る。
- ⑦ 昔は班しかなかったけど・・・自分たちが歳をとって取りに行けなくなったら困るな～、届けてあげられたらいいな～の思いから、個配の仕組みを作ってきた。今では届けるだけでなく見守りにもなったりして。

★“みんなの活動”をイラストで★

事例1 せっけんを使ってみました！



①Aさんは哺乳瓶洗いで手指の荒れがひどくなり、皮膚科に行っても対処療法だけでとても困っていました(´_`)



②ある日、友人から「生活クラブのせっけんを使ってみたら？」と紹介され、使い続けることで肌荒れの予防になっています！(^^)!

事例2 ケチャップが食べたい！



①Bさんは、ケチャップが大好きで、ケチャップたっぷりのお店のハンバーガーを食べていたのですが、口の周りが痛痒くなってしまいました(´_`)



②ケチャップが大好きなのにあきらめるしかないかな、と嘆いていたら、「生活クラブのケチャップを食べてみて」ともらって、食べてみたら、痛くない！美味しい！友人に感謝(*^^*)

★消費材

合成洗剤、添加物、化学物質 etc. …気になっている人、困っている人は周りには実はたくさんいて、話してみると、それが解決したり、さらによくなったり…！

せっけんやケチャップ(消費材)のこと、もっと知りたい！そんな時は生産者交流会や学習会も開けます。「こうしたらもっと使いやすいのに！」「こんなのが欲しいなあ」の声から消費材の改善、新消費材開発につながっています。また、組合員が消費材を利用することが、市場を変えていく力になっています。

事例3 海のごみ拾い活動に参加！

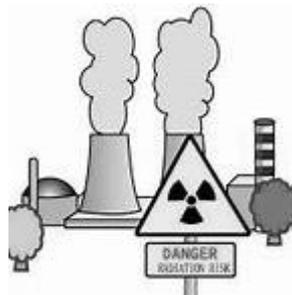


①Cさんはいつもきれいな海にプラスチックごみが浮いているのを見て、どうにかして撤去出来ないかと思っていました。



②そこで、市役所に問い合わせると、Facebookで海のごみ拾いをしている組合員さんのグループを紹介してもらいました。それからCさんもその活動に参加するようになりました。

事例4 放射能が心配！



①東日本大震災後、自宅周辺や通学路や子どもの遊ぶ公園の放射線量が心配という声が多くありました。



②安全性を確認するためみんなで放射線量を測ろうということになりました。

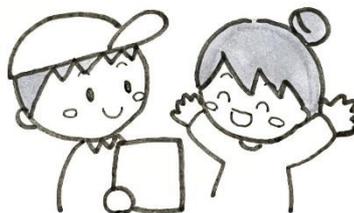
★環境問題

プラスチックごみや、放射能の問題など、心配なことがたくさんあります。一人で悩んでいる人もいるかもしれません。一人では解決できないような大きな問題も、周りの人たちに話してみることで、何か行動する、解決する、実現するきっかけになります。行政に働きかけることにもつながります。

事例5 個別配送スタート！



①Dさんは自宅から班の荷受け場所までが遠くて困っていました。そして実は多くの組合員が、個配があったらいいな、デポーもいいなと思っていました。



②そこで、自分たちが歳をとって班に取りに行けなくなったら困るな、届けてあげられたらいいな、という思いもあって個別配送の仕組みを作ってきました。

★班配送と個別配送

班も個配もそれぞれの良さを生かして地域へ広がっています。消費材が届くだけでなく、個配は直接見守りにもなっています。班はお互いに見守りあう場でもあり、地域のたすけあいの拠点になっています。